

今回は、今年度のケガニ密度調査の結果速報（オホーツク総合振興局管内のみ）と、網走水試が参加した夏のイベントについてご紹介します。

《令和元年(2019年)オホーツク総合振興局管内におけるケガニ密度調査結果(速報)》

今年度のケガニ密度調査は6月10日～7月3日の期間に10隻の調査船により実施しました。調査は全68定点において1定点につき調査かご50個を1日間設置してケガニを採集し、定点毎に漁獲尾数の計数、甲殻硬度の判定と甲長の測定を行いました。オホーツク海域のケガニでは資源量を直接推定できないため、資源量指数^{※1}を用いて資源状況を把握しています。その結果、令和2年度漁期に漁獲対象となる甲長7cm以上の雄の資源量指数は1,515であり、昨年の1,957に対して0.77倍に減少し、昭和61年度（1986年度）以来最低を更新しました。このうち、次年度新たに漁獲対象となる加入群（甲長7cm台雄）の資源量指数は、平成21年から25年まで増加傾向を示していましたが、平成26年から減少傾向が続いています（図1）。甲長7cm未満の雄ガニ（再来年以降の漁獲に加入する資源）は昨年の0.88倍に留まったことから、資源の早期回復は難しい事が窺（うかが）えます。海域別資源量指数や定点別漁獲尾数など詳しい情報はホームページ^{※2}でご覧下さい。

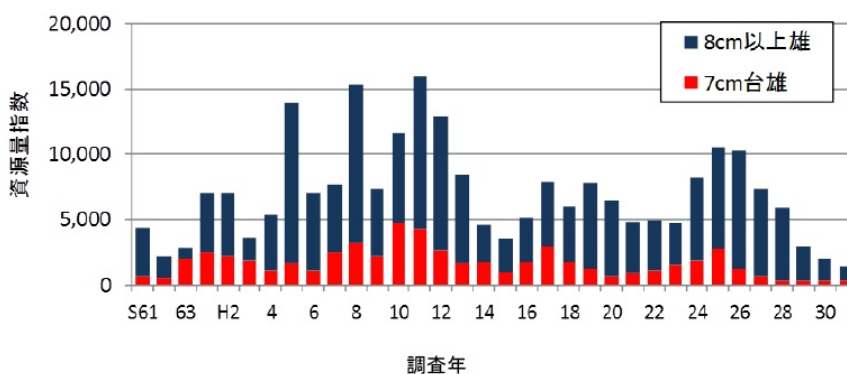


図1 甲長7cm以上の雄ケガニの資源量指数（オホーツク総合振興局管内）

《第12回あばしり水産フェスティバル》7月28日（日）

網走市水産振興協議会主催で開催されている「あばしり水産フェスティバル」に、今年も参加しました。網走水試では網走漁協青年部と共同で「カラフトマス教室」を担当しました。青年部はカラフトマス漁業の流れを紹介し、網走水試からはカラフトマスの生態とからだの仕組みについて講義した後、子ども達にカラフトマスの解剖を体験してもらいました。最後には家族でホイル焼きを味わってもらいました。



カラフトマス解剖の様子

《北見農業試験場公開デー2019》8月8日（木）

道総研北見農業試験場（訓子府町）で開催されている公開デーに、今年も共催で参加しました。網走水試のブースでは「研究成果パネル展示」や「プランクトン観察」等を行った他、網走湖産シジミのお味噌汁を味わってもらいました。あいにくの小雨でしたが、クイズラリーにも参加した事もあり、昨年よりも来場者が増えたようでした。



プランクトン観察

（網走水試 佐々木義隆）



※1：毎年同じ条件で行った調査データを解析し、経年的に比較することで資源水準や動向を相対的に把握できます。当海域でのケガニ資源量指数は、①毎年同時期に同一地点の密度調査から漁獲尾数と重量を把握する、②各定点の漁獲尾数と重量を調査面積で重み付けする、③各定点の値を合計して海域全体の資源量指数を得る、といった方法で算出します。

※2：http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/abashiri/section/zoushoku/att/kegani_sokuhou_190729.pdf